

I 学校の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業

綾川町立綾川中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
5学級 155名	5学級 165名	6学級 193名	3学級 14名	16学級 527名

○教員数 45名

◆学校の特徴

本校は、令和4年度に旧綾上中学校・旧綾南中学校の統合を経て開校した新たな学校である。統合後3年目を迎えた今年度は、学校教育目標「思いやりと広い心で ともに生きることを学ぶ 知性と創造性を磨き世界に生きることを学ぶ」のもと、学校スローガン『ともに チャレンジ! ～ 美しい「あ・や・が・わ」の進化 ～』を掲げ、「一人」を大切に全員参加の教育活動を目指して日々の指導を展開している。

本校の生徒は、恵まれた自然環境と家庭や地域の方々に温かく見守られながら育っており、素直で純朴である。授業や学校行事、清掃活動等に一生懸命取り組むことができる反面、主体性や粘り強さにはやや物足りなさを感じる。しかし、他者との協働をいとわない生徒集団ではあるので、一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ「指導の個別化」を図ったり、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し「学習の個性化」をねらったりすることで「個」にもフォーカスしつつ、協働的な学びとの一体的な充実に向けて研究推進に取り組んでいるところである。

II 研究主題等

研究主題

ともに楽しむ授業づくり
～ 「分かる」「できる」「楽しい」 全員参加の授業を目指して ～

◆研究主題設定の理由

本校の生徒の課題は、学力と学習意欲の二極化である。特に、学習意欲の二極化は顕著であり、昨年度実施したアンケート調査における「学習している内容に興味をもって取り組んでいますか」という問いに対し、「そう思う」と自信をもって回答できる生徒の割合は半数にも満たない。こうした状況を改善するには、どの生徒も授業の中で、「分かった」「できた」と実感できる場面が随所にあること、どの生徒も学ぶことの楽しさを実感できること、どの生徒も授業の中で自分の居場所や活躍している実感がもてることなどが大切であると考えた。

そこで、授業改善を推進していくためのキーワードとして、①「分かる」「できる」(個別最適な学び)、②「楽しい」「全員参加」(個別最適な学び+協働的な学び)を掲げるとともに、教師と生徒が一緒になり、ともに授業をつくっていくことが重要であると考え、本研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法

- ① 『綾川きりっと6か条』を基盤とした指導の展開
学習規律及び行動規範として整えた『綾川きりっと6か条』を、学びに向かう構えを醸成する基礎・基本となるものとして共通理解し、意味理解と価値認識の浸透に努めながら、生徒への学校生活全般での汎用を意図した指導を展開する。
- ② 学習過程の工夫
「解決する必然性のある学習課題→目的意識のある学び合い→成長を実感する振り返り」による学習過程を意図的に仕掛け、より深い学びへと導く効果的な指導方法や手立てを工夫する。
- ③ 教職員研修の実施
学力の二極化・学習意欲の二極化改善に向けた授業づくりの基礎的なスキルアップを図るために、学期（月）ごとに学習指導の重点やHow to等を教員に提示し、共通実践を行う。

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

各種学力調査及び質問紙調査や定期テスト、各種校内アンケート（生徒・教師）結果をもとに、成果と課題を分析しながら、生徒・教師の変容を見て取る。特に、校内アンケートにおける次の2項目についての変容を見て取り、研究内容及び方法が適切であったか、本校の課題である二極化（特に学習意欲の面）改善に向けた取組として有効であったかなどを検証する。

- ① 授業中、「学級の全員が授業に参加している」と感じますか（一人一人に発言の機会がある、その教科が苦手な生徒も含めてみんなで学び合おうとする雰囲気がある など）。
- ② 授業中の学習内容や学習活動が、「楽しい」と感じますか。

Ⅳ 研究成果の普及方法

- ① 年3回の研究授業を公開する。
- ② 香川の教育づくり発表会で、実践内容とその成果を発表する。
- ③ 学校便りや学年団通信に、研究の概要や現状・成果等を掲載し、保護者等に周知する。